

# マイナビ電子書籍・VOD比較 頭文字D[イニシャル]Dの感想調査



「頭文字D」の感想・評価を調査！



完全無料配信中！

5.0



Wさん:★★★★★

「頭文字D[イニシャル]D」を見て、迫力満点のレースシーンとリアルなドリフトテクニックに圧倒されました。特に、個性豊かなキャラクターたちの成長と熱いバトルが感動的で、レースを通じて描かれる友情やライバル関係も魅力的です。音楽と演出も絶妙で、興奮が一層引き立っています。オススメポイントは、スピード感あふれるレースと、心に残るキャラクターたちのドラマです。

Gさん:★★★★★

当時私がまだ免許を取ったばかりの時でした。

時代背景にあった、走り屋をテーマにした漫画です。

自身もこの漫画がきっかけで、ジムカーナを数年間やっていたくらいです。

特に主人公の乗る「AE86」は、個々にカスタムした自慢のマシンでした。

現在も人気のある頭文字D、旧車好きにはたまらない作品だと思います。

Mさん:★★★

まず声優は合っている感じがしています。イメージにぴったりです。アニメそのものはしっかりと原作の流れ通りであり、変な改変が多いこともなく、原作好きならば問題はありません。青春物らしい感じもするのでよいです。

**Fさん:★★★★**

スポーツカー最盛期の90～00年代の名車たちが  
実際の峠を舞台に迫力あるバトルを繰り広げるシーンは  
フィクションながら手に汗握るものがある。  
当時の走り屋と呼ばれた若者たちが何に熱中していたのか  
知ることができる面白い漫画だと思う。  
また、車に興味がなく無気力だった主人公が各地の強敵や  
プロのレーシングドライバーとのバトルを通じて  
将来の目標を持ったリスランプを乗り越えたりと  
人間的に成長していく姿も見どころ。

**Eさん:★★★★**

元々車には全く興味がない人間でしたがこのアニメは面白いと思いました。特に特徴的なのが勝負の中で流れるユーロビートです。このユーロビートがレースバトル特有の疾走感にかなりマッチしており、車好き意外には地味に映りやすい絵面に迫力をプラスしてくれています。またこのアニメの特徴として独白に特徴的な台詞が多く声優の演技に熱が入っているため、盛り上がりのシーンが車に詳しくなくてもわかりやすいと思いました。

**Sさん:★★★★★**

古い車がたくさん出てくるので、車好きな人や運転好きな人には堪らないアニメです。声優さんも豪華で有名な方が数多く参加されています。車のバトルが1番盛り上がるのでそこが見どころでもあり、その場面に使われている音楽も聴きがいがあって楽しめると思います。実際の場所をモデルに作られているため聖地巡礼をする楽しみもあって地域活性化にも一役かっているすばらしい作品です。

**Hさん:★★★**

「頭文字[イニシャル]D」は、主人公藤原拓海が、豆腐屋の配達車であるトレノ86を駆りながら、数々のライバルとのバトルを繰り広げる姿が描かれています。特にリアルな走行シーンと細部まで再現された車の描写が魅力で、カーレースファンにはたまらない作品です。また、拓海の成長や仲間との絆、レースを通じたドラマが感動的です。

**9さん: ★★★**

峠を駆け抜けるシーン。ヘッドライトの光が夜空を切り裂き、エンジン音が轟く。その緊迫感とスピード感は、まるで自分もレースに参加しているかのような感覚にさせてくれた。そして、忘れてはいけないのが、ユーロビートだ。あの軽快なリズムは、レースシーンをさらに盛り上げ、記憶に残る名作を作り上げた。

**Mさん: ★★★★★**

アニメ頭文字Dについて感想書きます。

好きなところは個性あふれるキャラクターが多く、その声優さんも今や大御所クラスの方が担当しているので、棒読み感もなく安心して頭文字Dの世界に入れるところです。

またシーズンが進むにつれて映像が綺麗になり且つ、ユーロビート(BGM)の使い方も上手く疾走感も与えられて気持ちの良く・ワクワクしてさせてくれます。

好きじゃないところは顔がシーズン毎に変わるところです。

**Pさん: ★★★★★**

車が好きなら誰でも知っているような有名な作品だと思いますが、レースのスピード感やヒリつきが見事に表現されています。また、OPED、挿入歌がとてもいいです。ユーロビート好きならたまらなくテンションが上がります。

**Gさん: ★★★★★**

「最高」の一言に尽きますね。車好きの方なら、必見のアニメです。

感想文を書いたことがないので、どの程度がネタバレになるのかわかりませんが、とりあえず。

子(主人公)は、親の元で育つ。

父は、豆腐屋を営みつつも、名の知れた「公道の走り屋」。

子は、家業を手伝うために、車を使っているだけだった。

(教わったその乗り方が、異質なものとは知らずに……)。

子はやがて、「公道の走り屋」から、「最速の男」へ。